

わが

文化の薫り高いまち、陽のあたる坂のまち — 小諸の新たな挑戦 —

浅間山の麓に抱かれた 高原の城下町

小諸市は、長野県の東部に位置し、国内を代表する活火山の一つである浅間山(2568m)の南麓に広がる高原の小都市であり、国内でも有数の日照時間の長さ(約2000時間)を誇る「陽のあたる坂のまち」です。

また、首都圏から200km圏内に位置し、北陸新幹線の佐久平駅または軽井沢駅を利用することにより、アクセスは至便な状況にあります。

古くは小諸城の城下町として栄え、市の中央部を清流・千曲川が流れ、数多くの文人墨客が訪れたことから、「詩情豊かな高原の城下町」とも称されています。また中山道、北国街道、甲州街道が交

わる交通の要衝の地にあり、小諸城(全国的にも珍しい「穴城」で、城下町より低い位置に城郭がある)の城下町、また宿場町が形成されるとともに、物資の交流が盛んになり、商業都市として栄えました。

平成9年には長野新幹線(現…北陸新幹線)が開通し、それまで首都圏と直結していた在来線が、第3セクター化により途切れることとなりましたが、結果として歴史や文化、豊かな自然など、今でも多くの資源が残されています。平成28年度には、本市が進むべき方向を示す羅針盤となる小諸市総合計画第5次基本構想がスタートし、めざす将来像を「住みたい行きたい帰ってきたいまち小諸」として、実現に向けた諸施策を展開しております。

恵まれた資源を生かし、 小諸の復活へ

国の重要文化財であり、日本さくら名所100選にも選定された小諸城址「懐古園」「大手門」をはじめ、本市には多くの資源が存在しておりますが、中でも、浅間連峰に位置する高峰高原は、高地トレーニングの適地として、近年大きな注目を集めております。標高600mに位置する市街地から、標高2000mの高峰高原まで、わずか30分ほどで到達することができ、年間の晴天率が

60%を超える恵まれた気象条件から、アスリートのトレーニング場所として活用できると判断し、本年2月に小諸市エリア高地トレーニング推進協議会を発足しました。西隣の東御市まで続く、湯の丸・高峰併用林道は、2000mの標高が4km以上も続くことからランナーのトレーニングに使用されているほか、標高1000m付近では本市から軽井沢町を結ぶ林道も活用されております。「リビングハイ・トレーニンングロー」の効果も得られることから、高校や大学などの学生チームや実業団、さらにわが国を代表するトップア



標高2000mでの効果的な高地トレーニング

スリートの合宿に利用されるなど、注目を集めております。さらに高地という特性上、アスリートに対する医学的サポートも欠かせないことから、小諸厚生総合病院を拠点に活動する一般財団法人浅間山麓スポーツ医学研究所では高地トレーニングにかかわるさまざまなデータを集積し、サポート体制を整えております。収集したデータやノウハウは、市民の健康づくりや生涯スポーツの推進にも生かしてまいります。

このほか、本市が誇る歴史や文化、豊かな自然を広く紹介するためのPR動画制作にも取り組み、平成28年12月には「小諸がアツ・イー!編 第1弾」を動画投稿サイトに公開しました。企画立案・絵コンテ作成・撮影・編集、そして私を含めた出演まで、業者委託を行わず、すべて手作りで制作しました。職員の人件費を除いた製作費が9500円と安価なこと注目を集め、全国版のテレビ・新聞などで取り上げられたこともあり、視聴回数は3万2000回を超えております。本年度は、市内の民間運送事業者の協力により、ラッピングトラック「こもろん号」

が3台誕生しました。本市の特産品である高原野菜を全国各地へと輸送する大型トラックを活用し、左側面には本市が舞台となったアニメ「あの夏で待ってる」の描き下ろしイラストを掲載しました。このイラストはポスター化し、ふるさと納税の返礼品として間もなく登場する予定です。右側面には、本市の特徴や特産品をアスキーアート(文字の組み合わせで表現した絵)で紹介し、特に若い世代の注目を集め、各地から目撃情報も寄せられるなど、本市のPRに役立てております。



ラッピングトラック「こもろん号」

「住みたい 行きたい 帰ってきたい まち 小諸」の実現へ

わが国は今、「少子化」「超高齢化」「急激な人口減少」という、かつて経験したことのない大きな困難に直面しております。多くの自治体が克服のために知恵を絞っておりますが、わがふるさとには、「かけがえのない恵まれた自然環境」「長い歴史の中で育まれてきた伝統や文化」「人々の絆」といっ

プロフィール

- ◆ 面積 98・55 km²
- ◆ 人口 4万2723人
- ◆ 世帯数 1万8579世帯

〔将来都市像〕「住みたい 行きたい 帰ってきたい まち 小諸」

〔まちの特徴〕浅間山の南斜面に広がる、清流千曲川と豊かな自然に囲まれた、伝統と文化が息づく高原の城下町

〔特産品〕高原野菜(レタス・キャベツ) 白菜・ブロッコリー、そば、りんご、桃、白土馬鈴薯

〔観光〕小諸城址懐古園、小諸市動物園、浅間山登山口、高峰高原、マンズワイン小諸ワイナリー、あぐりの湯こもる

〔イベント〕懐古園桜まつり、浅間ヒルクライム、アサマスタートークロスウォーク、懐古園紅葉まつり、マンズワイン小諸ワイナリー 収穫祭、生きもの写真リトリック



小諸市長
小泉俊博



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

未来のために、みんながやさしさを つなげるまち、習志野

自然と都市の調和を目指して

東京駅からJR総武線（津田沼駅）やJR京葉線（新習志野駅）で最短27分の距離に位置する習志野市は、千葉県内2番目に小さな市域面積（約21㎢）に約17万人が生活している人口密度が高いコンパクトな住宅都市です。



東京湾唯一の国際条約（ラムサール条約）登録湿地「谷津干潟」

本市は戦前戦中には軍郷として発展し、戦後は首都圏のベッドタウンとして住環境にウェイトを置いたまちづくりを行ってきた。その根幹となるのが昭和45年制定の文教住宅都市憲章です。

「子どもたちのために自然をまもり育てていく」という理念の下、都市部にありながらも、東京湾唯一の国際条約登録湿地「谷津干潟」をはじめとする自然との調和を保っています。

最近では、JR津田沼駅南口に新しく誕生した街「奏かなでの杜もり」が高い評価を得て、民間による「住みたい街（駅）ランキング」にも登場しています。

持続可能な都市経営のために／公共施設の再生

昭和29年の市制施行以来、増加

を続けてきた本市の人口は、推計

によると25年後は減少するもの、その幅は大きくありません。しかしながら、生産年齢人口の割合が減り、税収に課題が生じる一方で、高齢社会により社会保障費は増大し続けます。さらに国や県からの影響も計り知れません。そこで、持続可能な行財政運営のために諸施策を展開しておりますが、その目玉となるのが公共施設再生計画です。

この計画では市が保有する公共施設を、どの時期に大規模改修・機能統合・複合化するかを「見える化」しました。25年間の長期にわたる計画であるため、社会経済状況の変化に合わせて3期間に分けることにより柔軟に対応できることが特徴です。今、モデル事業として8つの施設を3つの建物に



大久保地区公共施設再生事業計画イメージ図（PFI事業者作成）

集約する「大久保地区公共施設再生事業」を民間事業者の創意工夫を取り入れたPFI事業として進めており、平成31年秋にオープンする予定です。統合集約される施設の利用者からは存続の要望もありますが、現状維持することにより将来負担が過大になってからでは対策が後手に回るばかりです。計画の名称に「再生」という言葉を用いているのは、市民の要望に沿って施設をリニューアルすると

いう意味があります。重要なのは、将来世代に過度な負担を残ることなく良質な財産を確実に残していく、という強い信念です。

また、公共施設のマネジメントにあたっては資産・負債の的確な把握が必要となるため、ファイナンス・プランナーや公認会計士の協力を得ながら、公会計改革にも取り組んでいます。

新たな魅力の創出・発信に向けて

本市は、いろいろな人・もの・情報が狭い市域にギュッと詰まっています。そのコンパクトさゆえ、時代の潮流に機敏に対応できる小回りのよさや、結束する力があると日々実感しています。また、市民と行政も身近で、市内各地のイベントには職員も積極的に出席しており、地域のエネルギーを直接いただいています。四季を通じて各地域・学校・公民館で開かれるコンサートでは、年齢・世代・ジャンルを超えて音楽を共有しています。そして習志野高校をはじめとする市立小・中・高校の音楽関連の課外活動では毎年のように全国大会で好成績を収めるなど、「音楽

のまち」としても広く市民に浸透しています。

スポーツもとても盛んで、小・中・高校の全国や世界レベルの活躍はもとより、社会人においても、日本一に7度輝いている社会人アメリカンフットボールチーム「オービックシーガルズ」や大相撲の阿武松部屋、さらに今年発足した3人制プロバスケットボールチーム「SEALSEXE（シールズドットエグゼ）」など、本市を拠点に活動するスポーツチームと市との連携もスムーズです。

このような魅力を内外に発信し、住民の愛着醸成、定住促進に



毎試合大歓声に包まれる市立習志野高校野球部の応援席

つなげていくため、平成28年に新たに民間出身のまちづくり広報監を採用し、シティセールスを進めています。まずは職員の認識や意識向上の取り組みとして、本市のシティセールスの考え方をまとめたコンセプトブックの発行や部課別対抗ポスターコンテストの実施、次代を担う若手育成の観点から、市内に立地・隣接する千葉工業大学・日本大学・東邦大学の学生による市内のおすすめスポットを

プロフィール

- ◆ 面積 20・97km²
- ◆ 人口 17万2412人
- ◆ 世帯数 7万8068世帯

〔将来都市像〕 未来のために「みんながやさしさでつながるまち」習志野

〔まちの特徴〕 どこに行くにも交通アクセスが抜群な湾岸コンパクトシティ

〔特産品〕 春夏にんじん「あやほまれ（彩誉）」、習志野ソーセージ



習志野市長
宮本泰介



〔観光〕 谷津干潟自然観察センター、谷津バラ園、巨人軍発祥の地、茜浜緑道（関東富士見百景「ダイヤモンド富士」）

〔イベント〕 谷津干潟の日フェスタ（6月）、市民まつり「習志野ざらっと」（7月）、ならしのきらっ子こどもまつり（10月）、食と暮らしの祭典（11月）、下総三山の七年祭り（丑年と未年の11月）

ビックアップした「NARASHI-ZONE（ナラシノオト）」の発行、そして現在、市民参加型の企画として、市の魅力を表す一言を探すための「習志野ブランドメッセージ」の公募など、矢継ぎ早に取り組んでいます。

これまで培われてきた伝統を継承しながら新たな魅力を創出し続け、本市の将来都市像である「みんながやさしさでつながるまち」を実現してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

市民と地域がキラリと「光り輝くまち」にあるもの探し「のまちづくり」

魅力的な地域資源の宝庫 「京丹後市」

京丹後市は、京都府の最北端に位置し、山陰海岸国立公園、丹後天橋立大江山国定公園に指定された風光明媚な海岸線、北近畿最大級のブナ林など、豊かな自然と魅



山陰海岸ジオパーク屈指の名所「立岩」

力的な地域資源の宝庫です。そして、市内全域が「山陰海岸ジオパーク」としてユネスコ世界ジオパークに認定されており、中でも「琴引浜」は国の名勝および天然記念物に指定された日本最大級の鳴砂の浜として知られています。さらに本市の海は、近年では良質の波が立つことでサーフィンの人気スポットにもなっています。

また、古代「丹後王国」の中心地として栄え、日本最古の「羽衣伝説・七夕伝説」「日本の稲作づくり発祥神話」「浦島伝説」など、往古からの伝承が多く残っているまちでもあります。

伝統産業「丹後ちりめん」と機械金属業

平成32年に創業300年を迎える絹織物「丹後ちりめん」は、これ

まで丹後地域の経済を牽引してきた代表的な産業ですが、本年4月、本市を含む丹後2市2町を舞台とした「丹後ちりめん回廊」が国から日本遺産の認定をいただきました。また、次世代への継承、人材育成の面から、市内小中学校において「丹後ちりめん」を学ぶ機会を設け、和装教育として浴衣の着付け指導を始めています。日本遺産の認定が、丹後の子どものたちの絹のふるさとへの理解促進、愛着と誇りを持つ良いきっかけになっていると感じているところです。

また、この織物産業の発展がルーツになっている当地域の機械金属業は、その技術の高さで地理的なハンディキャップを克服し、個々の企業が販路開拓など積極的に展開しています。企業経営も2代目、3代目としっかり受け継が



日本遺産に認定された「丹後ちりめん」

れ、近年では特に、若手経営者を中心に新たなチャレンジの息吹が芽生えてきています。

持続可能な社会へ 向けた挑戦

今、日本では、人口減少と高齢化が進んでいます。本市も例外ではなく、人口減少スピードの緩和を図ることが喫緊の課題となっています。

その対策として力を入れているのが、まず「子育て環境日本一の



冬の味覚の代表ズワイガニの最高級ブランドとされる「間人ガニ」

まち」を目指した環境整備です。高校・大学生を対象とした奨学金制度の拡充のほか、本年4月からは子育て医療制度の対象年齢を18歳の年度末までに広げました。また、幼保一元化の認定ことも園への移行や保育所の再編・民営化への取り組みをはじめ、保育料の大幅な引き下げと第3子以降の保育料の無料化を実施。放課後児童クラブの利用料の大幅な引き下げと子育て支援センターの充実など、子育て環境日本一を目指した取り組みを進め、それを内外に発信することで移住・定住の促進にもつなげたいと考えています。

次に、「公共交通」の充実です。「700円の運賃で2人しか乗っていないなら、2000円の運賃で7人乗ってもらう方がよい」との考えから「上限2000円バス」

や、「高齢者片道2000円レール」さらに、ICTによる配車システムを活用した「ささえ合い交通」の運行に取り組んでいます。この「ささえ合い交通」の運行は、公共交通空白地有償運送として地域の「登録ドライバー」の自家用車を使用し、スマートフォンを活用した配車・運送サービスで、全国初の取り組みとなっています。

最後に、食材の付加価値を高めた「美食観光」の発信です。「丹後産コシヒカリ」は米の食味ランキングで「特A」ランクを西日本で最多獲得し、冬の味覚の代表である「間人ガニ」はズワイガニの最高級ブランドとして評価をいただいています。

このように、山陰海岸ジオパークをはじめとする豊かな地質・自然の中ではぐくまれた、良質で安全な食材、またその食材を用いた料理や加工品などが数多く存在することから、特に「食」に着目し、美食観光の取り組みをスタートしています。

何よりもまず、市民が地域の良さを知らないことには情報発信できません。「あるもの探し」として地域資源を掘り出していくことに



京丹後市長
三崎政直

プロフィール

- ◆ 面積 501・43 km²
- ◆ 人口 5万6168人
- ◆ 世帯数 2万2724世帯

〔将来都市像〕ひと みず みどり
市民総参加で飛躍するまち
北近畿新時代へ和のちから輝く京丹後

〔まちの特徴〕美しく豊かな自然に恵まれ、歴史と伝統に裏打ちされたものづくりと美食あふれる観光のまち

〔市町村合併〕平成16年4月1日、峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町が対等合併。

〔特産品〕間人ガニ、丹後産コシヒカリ



力を入れ、観光立市の実現に向けて取り組んでいきたいと思えます。

市民と地域がキラリと「光り輝くまち」を目指して

本市は、光り輝く魅力的な人や地域資源の宝庫だと感じています。多様な市民の個性や力を結集

し、若者が希望にあふれ、女性が活躍し、高齢者が安心して暮らせる、そして、市民が誇りを持ち、たくさんの人が訪れる「市民と地域がキラリと光り輝くまち」に進展させ、次世代に引き継いでいく。これが、私の使命であると認識し、これからもその実現に向け邁進していきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

地域の宝（資源）を活かした まちづくりを目指して

歴史・伝統・文化を
活かしたまちづくり

鹿島市は、佐賀県の南西部に位置し、東には有明海が広がり、西は多良岳山系に囲まれた自然環境に恵まれたところです。鹿島鍋の城下町として栄えてきた



肥前浜宿の町並み（酒蔵通り）

本市は、古くから酒造りが盛んな土地柄で、現在も6軒の造り酒屋があり、豊かな自然にはぐくまれたおいしい水と米、そして蔵人の手によって良質な酒が造られています。

そのうち3軒の造り酒屋が建ち並んでいる「肥前浜宿」は、有明海を臨む浜川河口の町として栄え、江戸時代は、長崎街道多良往還（多良海道）の宿場町として、豊かな町並みがつくられました。

白壁土蔵の酒蔵やクド造りの武家屋敷・継場つぎばが建ち並んでいる通称「酒蔵通り」の地区と、江戸時代に商人や船乗り、鍛冶屋や大工が暮らしていた茅葺町家が建ち並ぶ地区の2地区が、平成18年4月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

この伝統的町並みと鹿島の地酒



酒が生まれた土地を散策しながら食や文化、歴史を全身で楽しむ「鹿島酒蔵ツーリズム®」

口の増加や知名度向上に寄与しています。
スポーツ資源を活かした
まちづくり

を活かして、毎年3月には「鹿島酒蔵ツーリズム®」というイベントが開催されます。市内6つの酒蔵の蔵開きや市内各所において多彩なイベントが行われます。平成24年に始まったこのイベントも、近年は、市内外から7万人を超える来訪者でにぎわい、交流人

毎年2月から3月にかけて、市内のあちこちで走っている合宿中の選手をよく見かけます。本市は、「スポーツ資源を活かしたまちづくり」の一環として、平成23年度からスポーツ合宿の誘致を行っています。本市の蟻尾山公園ぎびざんには、日本陸上競技連盟の第3種公認の「陸上競技場」、競技場に隣接して「クロスカントリーコース」も備え、陸上などのさまざまなトレーニングに対応できる環境が整っているとの評価をいただき、明治大学、順天堂大学、東洋大学、大東文化大学や日本体育大学など箱根駅伝の常連校が合宿を実施しています。本年は、箱根駅伝3連覇を果たした青山学院大学の原晋監督と主力選手10名を含め、「6大学」合計151名が合宿に來られました。このスポーツ合宿に



鹿島市スポーツ合宿に訪れた青山学院大学の駅伝選手

よって、市民の間に広くスポーツについての関心を深めるとともに、多様な交流を実現して地域の活性化が図られています。また、「陸上教室」や「合同練習」などを通して、一流の選手と触れ合った子どもたちが、技術向上だけでなく「ものの考え方」などを学び、未来の鹿島市を盛り上げてくれるものと思っています。

災害に強いまちづくり

本年7月の九州北部豪雨では、本市にも大量の流木などが有明海沿岸に漂着し、漁業などへ影響を

及ぼしました。このような局地的豪雨やゲリラ豪雨は、いつどこで発生しても不思議ではありません。市民の災害に対する「安全・安心」の意識が高まる中、本市は「災害に強いまちづくり」に向け取り組んでまいりました。平成26年度に完成しました東部中学校の「南校舎」は、「太陽光発電設備」や災害時に長期間の避難生活にも対処できる機能も備え、佐賀県では初めてとなる避難所としての機能を備える学校となりました。また、平成28年9月には、防災・防疫・災害対策本部機能などを集約した「鹿島新世紀センター」が完成しました。上水道と下水道を所管する部署をセンターへ移転し、ライフレイン機能を集約、毛布などの備蓄倉庫や災害時の対策本部としての機能を持たせました。

さらに、避難情報や災害情報など必要な情報が各家庭に瞬時に伝わるよう、市内のほぼ全域をカバーするケーブルテレビと各世帯に設置した防災情報受信機を利用した屋内放送システムを整備してまいりました。今後は、これらを十分に活用できるように市民の皆さまとともにソフト面の強化を進

めていきたいと思っております。

みんなが住みやすく、暮らしやすいまちの実現に向けて

本市には、先人から受け継いだ豊かな自然や風土、歴史や文化のものづくりの力、地域の絆など、誇るべき財産があります。これらの地域資源を掘り起こし、さらに磨き上げることで「かしま創生（地

方創生）」を実現していくことが重要だと考えています。

そのため、平成28年3月に策定した「第六次鹿島市総合計画」に掲げる「しごと・ものづくり、ひとづくり、まちづくりの好循環を目指す」ことを基本理念として、人口減少や少子高齢化などの地域課題に向き合い、鹿島の魅力を活かしたまちづくりに取り組んでいきます。

プロフィール

- ◆ 面積 112.12 km²
- ◆ 人口 2万9889人
- ◆ 世帯数 1万796世帯

〔将来都市像〕「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」

〔まちの特徴〕佐賀県の南西部に位置し、有明海と多良岳の自然の恵みによってはぐくまれた歴史や伝統、ものづくりが盛んな城下街

〔特産品〕海苔、みかん、有明海の幸、押し出し糸きり羊羹（稲荷羊羹）、地酒、



鹿島市長
樋口久俊



浮立面、のごみ人形、鹿島錦など
〔観光〕祐徳稲荷神社、肥前浜宿、酒蔵見学、道の駅鹿島、干潟体験、奥平谷キャンプ場

〔イベント〕鹿島酒蔵ツーリズム®、旭ヶ岡公園桜まつり、鹿島ガタリンピック、鹿島おどり、かしま伝承芸能フェスティバル、鹿島市特産品まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。